

番号	テーマ	ご意見・ご質問	回答・意見・説明
1	総合戦略全体を通して	中九州横断道路の延伸等により交流人口の増加や物流の促進が期待されますが、こうした期待を政策として現実のものとする取組を整理されてはいかがでしょうか。	本市は、中九州横断道路を中心とした道路交通網となっており、国道326号や県道三重新殿バイパスなどと直結していることから、大分市や福岡県、熊本県、宮崎県とのアクセスの良さが魅力的です。このような立地に関する優位性を活かし、企業誘致などの取組が現実のものとなるよう推進していきたいと考えています。 また、滝室坂道路については令和8年度の開通予定となっており、阿蘇方面からの交流人口の増加が期待されます。開通前から本市の自然や食などの地域資源を積極的に発信することで、中九州横断道路延伸により期待される効果を最大限活かしていきたいと考えます。
2	総合戦略全体を通して	「小規模事業者経営改善資金利子補給補助事業」については、事業実施期間を延長し、事業を継続いただきありがとうございます。いわゆる「マル経融資」は昨年度、制度創設50周年を迎え、豊後大野市商工会とも連携し、推進に努めた結果、令和5年度は融資額が増加しました。引き続き、豊後大野市の小規模事業者のために、豊後大野市商工会と連携を図りながら、「マル経融資」の推進を図って参ります。	小規模事業者の経営の安定と発展を図るため、引き続き利子補給事業に取り組んでいきたいと考えています。
3	基本目標①-1-1に関して	有機農業の取り組みについて、HP掲載等受け身ではなく、見込み先をピックアップして直接推進する等の取り組みはしていますか？	国の「環境保全型農業直接支払交付金事業」を活用して市内2団体が有機農業等環境負荷低減に取り組んでいます。 本市では、令和7年度に第5次農業振興計画(R8～12年度)の策定を予定しており、これにあわせて市有機農業推進計画(案)を策定する計画です。
4	基本目標①に関して	基本目標①-3「先端技術への挑戦」を「DXの活用や先端技術への挑戦」とし、住民の利便性向上に向けた電子申請率の向上等、自治体DXの施策を入れてはいかがでしょうか。	電子申請に関しては令和7年度までに主な住民申請手続きについて構築を進めています。構築後は市民に活用いただく必要があり、各業務には電子申請活用の案内や周知を積極的に行っていただく必要から電子申請率の向上を施策に入れるべきだと考えます。
5	基本目標①-1-11に関して	営農普及サポート支援事業は、目標値との乖離が大きいですが、ターゲットを選定して能動的に動くことが必要ではないでしょうか？	市の重点推進品目であるピーマン、かんしょ、白ねぎの生産振興を図るため、単収の低い生産者等を中心に栽培技術指導を行う「普及支援協力員」を位置付け、底上げを図っています。 協力員は、県普及員、JA営農指導員等と連携して、栽培現場において技術指導を行っています。

令和6年度 第1回総合戦略推進委員会 ご意見・ご質問一覧

番号	テーマ	ご意見・ご質問	回答・意見・説明
6	基本目標 ① -1-12 に関して	福岡中央卸売市場や主要市場等へのセールス(トップセールス含む)は、定期的に実施して売り込みや要望の確認をしていますか？	コロナの5類移行を受け、令和5年度から福岡中央卸売市場でのトップセールスを再開しました。市場では、セリ場での市場関係者への売り込みはもとより、市場役職員等との意見交換を行い、消費者ニーズ、市場動向の把握、市場が求めている内容の確認を行い、本市の農業振興策に盛り込めるよう努めています。
7	基本目標 ① -1-14 に関して	経営計画の審査について、日本政策金融公庫や地元金融機関との連携はしていますか？	事業を実施するにあたり、事業計画を企業に作成してもらいますが、この計画の審査については、県市で行っております。 なお、企業が補助事業を実施する上で、日本政策金融公庫や地元金融機関等から融資を受けて行う場合は、借入先にこの事業計画を提出することになります。
8	基本目標 ① -2-2 に関して	企業誘致推進事業は、熊本のTSMC関連の下請け企業の誘致を是非やってほしいです。立地的には熊本と大在ふ頭の中間に位置する当地は、立地的には優位であり、半導体事業に必要な水資源も豊富との認識です。必ず実現していただきたいです。	企業誘致は、地元雇用の拡大や税収の確保、あるいは地元商工業者との取引の増加に加えて、従業員やそのご家族など、多くの人の移住、定住や出生数を増やす効果が期待でき、若年層の増加による地域活性化や、地元での消費拡大といった地域経済にも大きな波及効果をもたらすことから、人口減少が進行する本市において最も重要な取組の一つと捉えております。熊本県の半導体関連企業を企業誘致の機会と捉え、産業用地整備を積極的に行っていきたいと考えています。
9	基本目標 ① -2-3,4 に関して	地元金融機関との連携強化を、是非お願いします。	豊後大野市中小企業振興条例及び豊後大野市中小企業振興資金金融規則に基づき、取扱金融機関が中小企業者に対して融資を行うために必要な資金を金融機関に預託するなど連携に努めています。また、関係人口交流拠点施設において創業希望者等の課題を明確化し、適切な支援を行うため、市・市商工会・市内金融機関で構成する関係機関連絡会議を開催するなど連携に努めています。
10	基本目標 ① その他 意見	一次産業は豊後大野市の基幹産業。農業のさまざまな基盤整備、新規就農者支援、人材育成、補助事業、女性就農者の支援、等々の取り組みの継続は是非やっていただきたい。農業収入面の不安定さは大きなネックとなっている。名実ともに「九州の野菜畑」となるために、更に抜本的な取り組みも必要だと思う。例えば、農業公社等を核として、儲かる農業に向けたモデルケースづくりを行ってはどうか。そのために、農業公社が県や国、民間、研究者等と連携し、当地に適した、大規模で収益性の高い農業を実現し、既存の農家や新規参入者、企業等にその生産資源や、スキルを譲渡していくようなやり方はできないでしょうか。	現在、第4次農業振興計画(R3～7年度)に取り組んでおり、令和7年度には第5次農業振興計画を策定予定です。担い手不足による農業生産人口の減少や耕作放棄地の増加、資材や肥料・農薬の高騰など、農業を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。 市としましては、水田畑地化の取組、園芸作物など高収益作物の作付け推進を図っており、引き続き農家所得の向上に努めてまいります。

令和6年度 第1回総合戦略推進委員会 ご意見・ご質問一覧

番号	テーマ	ご意見・ご質問	回答・意見・説明
11	基本目標②に関して	<p>・現時点で目標とする人口規模は不明ですが、出生数を増やすためには、出生率の向上を目指した自然増対策としての施策に加え、若い女性の人口を増やすための取組も推進する必要があると考えます。若い女性の移住定住を進めるための施策を目標に設定してはいかがでしょうか。</p> <p>・女性や高齢者の活躍推進は大切な取組と考えます。併せて外国人材についても相互理解を図る取組や安心して働ける環境づくりも重要な視点ではないでしょうか。そうした取組を記載してはいかがでしょうか。</p>	<p>・移住定住促進については、現在幅広い世代を対象とした施策を展開しており、特に子育て世帯に対しては、補助金への子育て加算など、手厚い支援を実施しております。一方で、若年女性をターゲットとした特化施策は現時点では設けておりませんが、いただいたご意見を踏まえ、今後の社会情勢やニーズを考慮しながら検討してまいります。</p> <p>・外国人材の相談等については、大分県雇用労働政策課が、県内自治体と協力し平成30年12月に「大分県外国人材の受入れ・共生のための対応策協議会」を設立し、令和6年3月に「大分県外国人材の受入れ・共生のための対応策」を策定し、取り組んでいるところです。</p> <p>具体的な取組として、日本語ボランティアによる事業所訪問を行っております。ゴミの出し方や災害時の避難方法、あるいは地域の文化などを学ぶことで、地域や職場になじみやすくし、安心して本市に住み、働ける環境づくりを行っています。</p> <p>本市が外国人材から選ばれるまちとなるため、委員ご指摘の通り、外国人材が安心して働ける環境づくりの取組について、次の計画に盛り込むことを検討してまいります。</p>
12	基本目標②-2-1に関して	<p>結婚新生活支援事業は、対象者への周知の仕方はどうしているのですか？婚姻届け提出時に漏れなく案内をしていますか？</p>	<p>本庁市民生活課、各支所窓口には本事業のチラシを配布しており、婚姻届提出時にご案内させていただいております。また、HPや公式LINE、市報、全戸配布、各事業所への配布により周知を図っております。</p>
13	基本目標②-2-2に関して	<p>婚活支援事業で、結婚に至ったのは何組ありますか？無いのであれば改善策は考えていますか？</p>	<p>この事業についてはその後の追跡を行うシステムになっておりませんが、1組は結婚したと報告を受けています。</p> <p>婚活事業の目的は結婚したくてもなかなかできない人を後押しすることや地域全体の結婚の気運の醸成だと考えています。今後は他市との合同の婚活イベントやもっと気軽に参加できるイベントを計画しています。</p>
14	基本目標②-2-8に関して	<p>医療ケア児の対象がないとのことですが、目標数字(年間100件)との乖離がありすぎて違和感がありますが、理由は何でしょうか？</p>	<p>目標数字の単位は%であり、医療的ケア児の保育所等への入所希望に対して、受入れについて検討会を開催し、受入れた場合の目標値と達成率を100%としていました。</p>

令和6年度 第1回総合戦略推進委員会 ご意見・ご質問一覧

番号	テーマ	ご意見・ご質問	回答・意見・説明
15	基本目標② -2-14 に関して	乳児家庭全戸訪問は、最近2か年の達成率が40%台ですが、件数が減少した理由はありますか？	R4・R5の産後うつ検討数の実績値の算出が間違っていました。R4・118人 R5・129人が正しい数値でした。R4・R5は産後うつ検討数の内、ハイリスクのみ実績値にあげていました。件数は減少しておらず、横ばいとなっています。
16	基本目標② -2-29 に関して	一時保育事業について、目標と実績の乖離が大きい理由は何ですか？	一時保育事業の主な利用者は、園に通っていない子どもや里帰り出産で帰省した子どもです。 乖離が大きい理由としては、共働きの家庭が増え園に預ける方が増加したこと、保育料が無償化になり園へ預ける方が増加したこと、市内で出産できる病院が無くなり里帰り出産が減少したことが考えられます。
17	基本目標② その他	基本目標②-④関係人口の創出・拡大において「二拠点」居住とありますが、例えば東京と豊後大野市でそれぞれ居住するという意味では「二地域」居住と表記されることがあり、国土交通省の広域的地域活性化のための基盤整備に関する法律の一部を改正する法律(R6.11.1施行)の資料などでは「二地域」居住と表記されています。同じ意味であれば、用語を統一されてはいかがでしょうか。	「二地域居住」は、主に都市部と地方の間で生活する形態を指すことが多く、「二拠点居住」は地域を限定せず、都市と地方だけでなく、地方と地方など異なる地域間で複数の拠点を持つ生活スタイルをより広く指す傾向があると認識しております。本市の総合戦略における「二拠点居住」の表記は、幅広い地域間の居住スタイルを包含する意図で用いておりますが、ご提案いただいた用語の統一につきましては、それぞれの特徴を踏まえ、次期総合戦略の策定過程において改めて検討してまいります。

令和6年度 第1回総合戦略推進委員会 ご意見・ご質問一覧

番号	テーマ	ご意見・ご質問	回答・意見・説明
18	基本目標③-1-1に関して	エコパークの存在は観光誘客に大きな可能性がある。国内のアップミドル層や、欧米豪の富裕層をターゲットとした施策が必要。できれば、周辺の市町村とも連携し、民間事業者の力も借りたほうが良いとおもいます。	<p>ユネスコエコパーク認定は、生物多様性と自然環境に富み、それを活用した人との自然共生のモデルとして認められたことを意味します。それ自体は観光地ではありませんが、このエリアで行われる自然を活かしたアクティビティ等は、ユネスコエコパークの認定を受けているという背景(ストーリー性)を付けられるので、民間の方に自然を活かしたアクティビティやツアー等を作ってもらえるよう、毎年市の事業として自然体験イベントを委託し、行っていますが、富裕層に向けたものとはなっていません。</p> <p>周辺自治体との連携は、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークが、そもそも複数の市町(大分県佐伯市、竹田市、豊後大野市、宮崎県延岡市、高千穂町、日之影町)で構成されているため、その推進協議会として連携して事業を行うことはあります。しかし、推進協議会の事業以外での連携は少ない状況です。</p> <p>民間の事業者との連携については、ほとんどできていないため、観光関係の事業者とツアーをつくる、環境保全に取り組んでいる団体と一緒に活動して環境保全に力を入れていることを普及啓発する、地場産品を作っている団体の産品にエコパークのブランド認証を行う等、今後連携して行く必要があると考えています。</p>
19	基本目標③-2-1に関して	空き家の登録件数を増やしていくことが課題。登記上の所有者を相続で変更していないケースも多い。いかにして所有者や家族、親族を確認して、連絡をとるかがネックになると思います。よい解決方法はありますか？	<p>これまで、空き家バンクの登録物件を増やす取組みとして、市報やCATV、市の移住ポータルサイトでの周知に加え、固定資産税の納税通知書に空き家バンクのお知らせを同封するなど制度の普及を継続して行ってきたところです。</p> <p>空き家の処分をご検討される方には、売買を行うためには登記名義人の変更を行わなければ物件登録ができない旨の説明をこれまで行ってきたところです。令和6年4月より相続登記の義務化も始まりました。引続き空き家バンクの物件登録を希望される方には丁寧に説明してまいります。</p>

令和6年度 第1回総合戦略推進委員会 ご意見・ご質問一覧

番号	テーマ	ご意見・ご質問	回答・意見・説明
20	その他	●●の分野が先進的」といったイメージがよく分かりません。「大分の野菜畑」「ジオパーク(大野川などの自然が豊か)」「シイタケ栽培が盛ん」「サウナで売り出し中」といろいろなイメージはありますが、突き抜けた感じがありません。今後、地域や自治体の個性(ブランド力)をどう磨いていくのでしょうか。	委員ご指摘の通り、本市は、魅力ある地域資源を多数有しているものの、まだまだ磨き足りない、とんがった独自施策が足りないという認識ではございます。 まずは、しっかり地域の現状(長所)を分析し、それらを磨いて、とがらせることが重要であると考えます。それには、さまざまな分野と連携していくことも必要で、この場におられる皆様方からも引き続きお力添えをいただきたいと考えています。
21	その他	思うような結果が出ない分野で、関係する職員や市内の最前線で奮闘する人たちの士気をどう保っていくのかも気がかりです。	課題や目的意識をグループ内でしっかり共有していくことが重要と考えます。ただし、大きな目標を設定することも重要ですが、その過程で小さな目標を設定し、達成感を得られるようにすることも大切であると考えます。さらに、研修やスキルアップの機会の提供やメンタルヘルス等も重要です。ご意見いただきありがとうございます。
22	その他	余った予算は、次年度へ繰り越すということではよいでしょうか？	前年度の決算後、繰越金として当該年度予算に計上されることとなります。